



※インタビューは、畠和宏さん（写真左）、小林弘樹さん（写真右）に協力していただきました

# 日常の中で「木」を使い 災害に備えるまちづくりを 輝いている人



受賞作品「ふだん木のまち」

キュービクル・最低限のシエルター空間国際コンペで最優秀賞を受賞した

**畠和宏さん・小林弘樹さん・田中智さん・河田達希さん（岡山県立大学チーム）**

仙台市を拠点に防災・災害復興支援事業を行う一般社団法人ヒトレンが開催したキュービクル・最低限のシエルター空間国際コンペ。53の国と地域から115作品の応募があった中で最優秀賞を受賞したのが、岡山県立大学デザイン学部建築学科・畠和宏助教のチームだ。畠さんと大学院2回生の小林弘樹さん・田中智さん、畠研究室卒業生の河田達希さんと結成された。

受賞につながった。

意識した点を畠助教に尋ねると、「一番の課題は平時の保管方法だった。普段から地域の中で使用でき、非常時への備えにもつながる仕組みを考えました」と話す。受賞について小林さんは、「制作の過程まで審査されたコンペは初めて。私たちの提案が評価され、本当にうれしかったです」と振り返る。

畠研究室では、既にこの提案を発展させたプロジェクトが進行しているそうだ。日常でも使えるものをという思いが込められた受賞作品が、今後さまざまな場所で活用されることを期待したい。